

## 南あわじ市の花

にほん すいせん  
日本水仙



[ City Flower : Narcissus Daffodil ]

(ナルシサス ダフォディル)

学名 : *Narcissus tazetta* var. *chinensis* (日本水仙)

Narcissus(ナルシサス) : ヒガンバナ科 スイセン属

### 1、水仙の解説

地中海原産とされる水仙は、シルクロードを経て中国に伝わり、中国南部から海流によって漂着したものが自然繁殖したとされる説と、奈良から平安時代にかけて中国から持ち込まれたとされる説とがあります。

漢名の「水仙」を音読みして「すいせん」になりました。漢名は「仙人は、天にあるを天仙、地にあるを地仙、水にあるを水仙」という中国の古典から由来。きれいな花の姿と芳香がまるで「仙人」のようなところから「水仙」と呼ばれるようになりました。

学名でもある英名「ナルシサス」はギリシャ神話の美少年の名前で、泉に映った自分の姿に恋をして、毎日見つめ続けたらいつのまにか1本の花になってしまった。「ナルシスト」の名はここからきます。

ラッパ水仙や房咲き水仙など、いろいろな種類がありますが、房咲き水仙に属する「日本水仙(にほ

んすいせん)」が、最もポピュラーで、別名を「雪の中でも春の訪れを告げることから、室町時代の「下学集」には「雪中花(せっちゅうか)」と記載されています。

花言葉: 自己愛、うぬぼれ

## 2、シンボルフラワーとしての選定理由

- (1) 500万本の水仙が咲き乱れる淡路島灘黒岩水仙郷は、福井越前海岸、千葉房総半島とともに、日本水仙三大群生地として全国に知られており、ふるさとの誇りとして、また、自然遺産として守り続けていく起点となります。
- (2) 幕末から明治・大正期にかけて、水仙を販売し一部住民が生活を安定させてきたとともに、地域特産物としての認知や地域イメージの向上に努めてきた歴史を理解することとなります。
- (3) 灘黒岩水仙郷は、年間約10万人のお客様をお迎えする南あわじ市の観光拠点であり、憩いとやすらぎを主体とした観光産業への取り組みを活性化させる機運を高めます。
- (4) 自然に群生した全国に誇れる景観を遺産として大切にし、自然景観保護への関心を高め、花いっぱいのみちづくりやふるさと意識の醸成を加速させることができます。
- (5) 特に灘黒岩の水仙は、「ちょこ水仙」として親しまれ、花冠中央の杯部さかずきぶが大きく、黄色が濃いのが特徴とされています。

